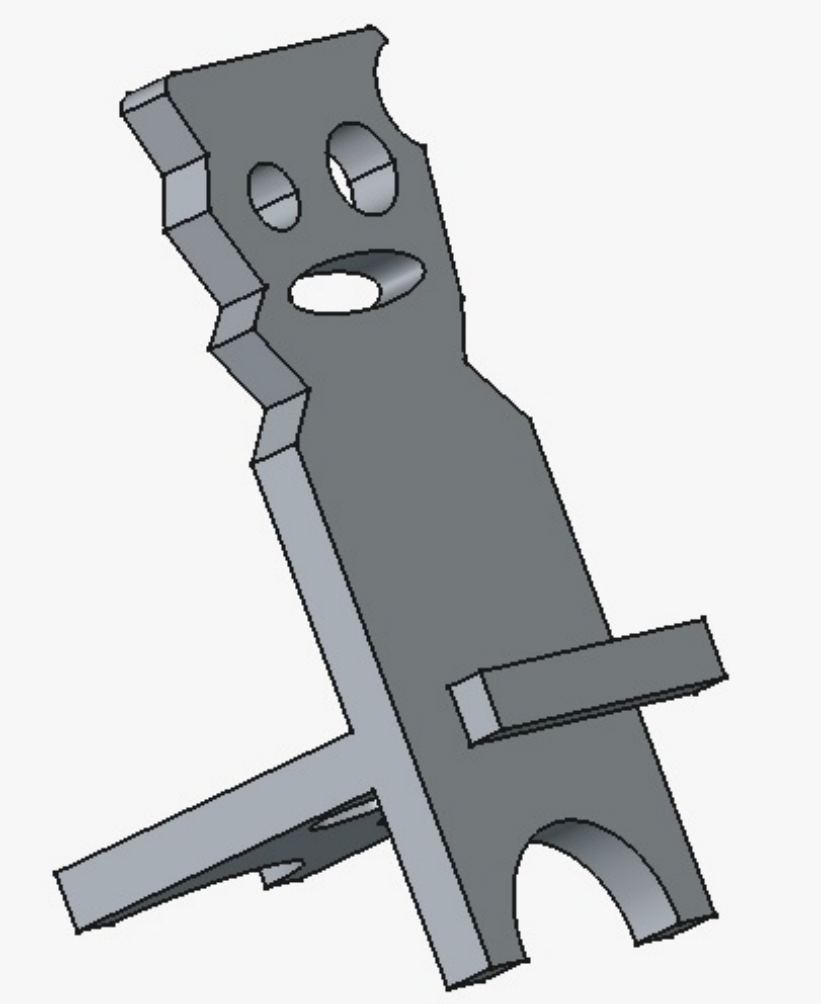
北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」令和８年度第７号 通巻 253 号

情報デザイン科学科だより
**Information Design Department**

# IDDNewsletter 10

**October**
**2026**



**特集**

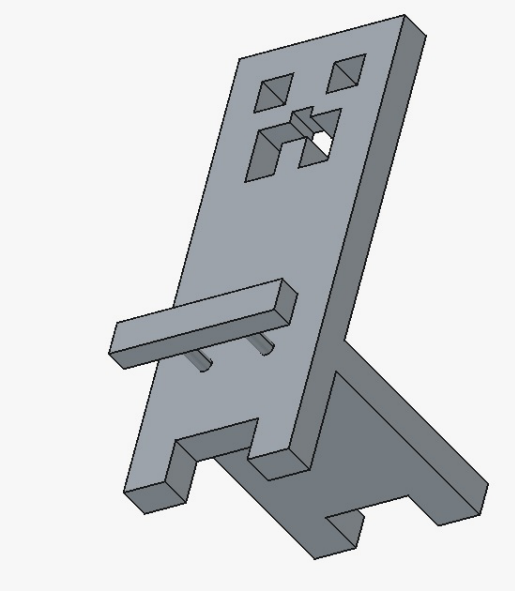
## 「3DCAD」の学習

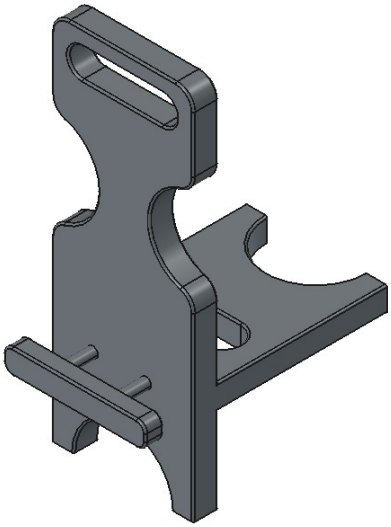
**「先生、スツールの３ＤＣＡＤのデータできています。確認お願いします。」学生達から、情報デザイン科らしい言葉のやりとりが聞こえるようになりました。**
**　専攻科の学生は、昨年度から３ＤＣＡＤを学習しています。昨年度の２月には、筑波技術大学との連携授業を実施し、３ＤＣＡＤでマグカップをデザインする課題にも取り組みました。**
**　１０月の学科だよりは、連携授業への感謝の意味を込めて、３ＤＣＡＤを用いた設計と製図の学習の様子をお伝えします。**

特集

# 「3DCAD」の学習

**「先生、スツールの３ＤＣＡＤのデータできています。確認お願いします。」学生達から、情報デザイン科らしい言葉のやりとりが聞こえるようになりました。**
**　専攻科の学生は、昨年度から３ＤＣＡＤを学習しています。昨年度の２月には、筑波技術大学との連携授業を実施し、３ＤＣＡＤでマグカップをデザインする課題にも取り組みました。**
**　１０月の学科だよりは、連携授業への感謝の意味を込めて、３ＤＣＡＤを用いた設計と製図の学習の様子をお伝えします。**





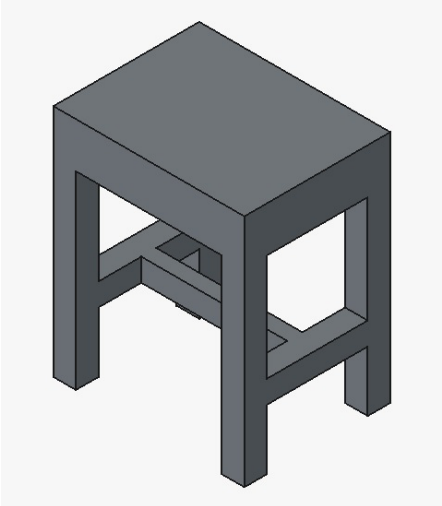
　上の２つの画像は、学生が３ＤＣＡＤでデザインしたスマホスタンドです。この題材からＣＡＤの学習が始まりました。「インテリアエレメント」の科目では、例年「スマホスタンドの製作」を題材の一つとしています。これまで、学生は構想を様々な方法で表現していたようですが、今年度は３ＤＣＡＤを使用して図のように、構想を表現しました。

　３ＤＣＡＤを使用するメリットは、部品図、組立図を同時に描画し、最後に一括して出力できることがあります。これは、実際の製作場面でも、円滑な製作ができるというもう一つのメリットです。

　下の画像が、ＣＡＤデータを基に実際に作製した製品です。





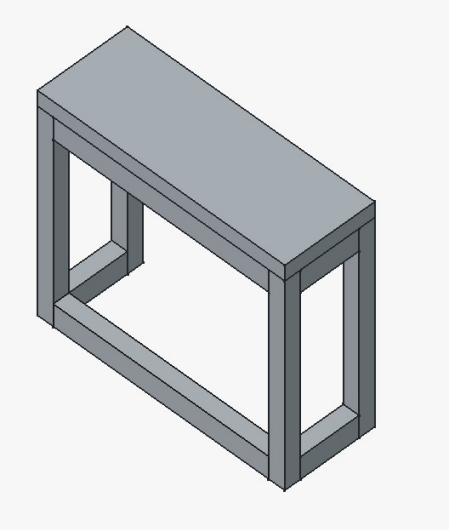


スマホスタンド同様に、同科目の題材である「スツールの製作」でも、３ＤＣＡＤを使用して上図のように構想を表現しました。

PC の画面上で、多方向から製品の組み立て方を観察できるメリットを生かし、製品全体を把握することで、完成のイメージを正確に保ち、製作を進めることができました。

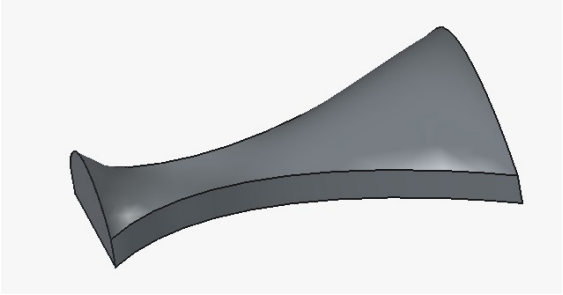


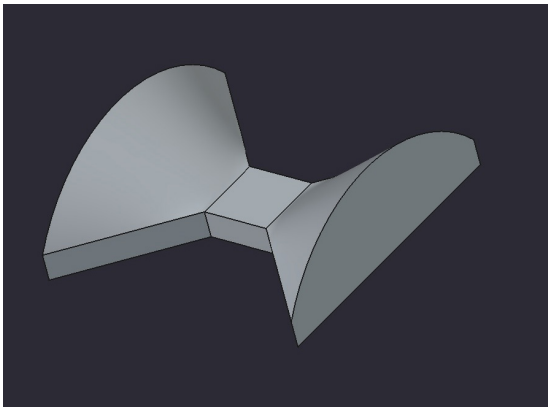
そのスツールとペアで使うミニデスクを現在、設計中です。



３DCAD は、専攻科の２年生の選択科目「CAD」でも学習しています。インテリアエレメントで学習している３ＤＣＡＤの発展的、応用的な学習という位置付けです。

今年度のテーマは「生活に役立つ物」です。下の図は、学生が 3DCAD で設計した「箸置き」の図面と３D プリンタで印刷した実際の製品です。







なお、学生が使用している３ＤＣＡＤは、オープンソースで提供されているＦｒｅｅＣＡＤを使用しています。

IDDN

# Contents

特集

## 「3DCAD」の学習

「先生、スツールの３ＤＣＡＤのデータできています。確認お願いします。」学生達から、情報デザイン科らしい言葉のやりとりが聞こえるようになりました。

専攻科の学生は、昨年度から３ＤＣＡＤを学習しています。昨年度の２月には、筑波技術大学との連携授業を実施し、３ＤＣＡＤでマグカップをデザインする課題にも取り組みました。

１０月の学科だよりは、連携授業への感謝の意味を込めて、３ＤＣＡＤを用いた設計と製図の学習の様子をお伝えします。

*Welcome to Information Design Department !!*







## 専攻科情報デザイン科の特徴

- 高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。（いわゆる「準ずる教育」の教育課程です）
- 授業料が全くかからず、材料費等も非常に低コスト(注3)で、対費用効果の高い学習内容を学ぶことができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象(注4)となっており、支援制度等も充実しています。
- DTP や Web に係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。（例えば、Web であれば、HTML5 と CSS3 を使い、セマンテックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトや center タグは使いません！）
- デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」(注5)で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- 学生のこれまでの学びの環境や積み重ね（「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等）に合わせた教育方法を準備します。
- 筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- 修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスを受けたり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い(注6)などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「（社会にとって、自分にとって）やる価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に選択できるようにしていきます。

注１：１食 400 円（昼食）で、就学奨励日の対象となっています。注２：学年末・学年始休業日、夏季・冬季休業日は閉舎します。注３：現在、材料費等は徴収しておりません。授業毎に使用する教材等は全て学生自身で準備し学校に持参していただきます。注４：特別支援学校に在籍する生徒・学生への補助制度で、帰省や通学にかかる交通費、給食費等が対象となり、所得状況に応じて額は変わります。注５：普通校には通常ない領域で、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服に焦点を当てます。具体的には、弊校の場合、聞こえや社会生活、コミュニケーションに係わる内容となり、学校の教育活動全般を通して行われます。注６：医療や教育分野では聴力を基準に考えることが多いですが、聴覚障害者の実際の社会での有り様においては、日本手話を母語とする「聾者」と聞こえづらいけれども日本語を母語とする「難聴者・中途失聴者」で分かれます。


情報デザイン科**学科だより**
**Information Design Department**

# IDDNewsletter

October 2026 10

IDD**Newsletter** October 2026

**発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム**
**発行／北海道高等聾学校**
**〒047-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1**
http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp


**※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。**